

第二回全国万葉故地サミット

# 事業実施報告書



## ◆事業概要◆

- 名 称 第2回全国万葉故地サミット
- 期 日 平成30年10月6日(土) 午後2時から午後5時30分まで  
10月7日(日) 午前9時30分から(エクスカーションを実施)
- 会 場 多賀城市民会館小ホール(文化センター内)
- 加盟自治体 高岡市、氷見市、小矢部市、射水市、越前市、奈良市、桜井市、  
明日香村、益田市、多賀城市
- 趣 旨 日本最古の和歌集「万葉集」編纂の中心的役割を果たしたとされる大伴家持は西暦718年(養老2年)に生まれたと言われており、生誕1300年を迎えました。  
これを契機として、万葉集や大伴家持をはじめとする万葉歌人ゆかりの地として万葉のまちづくりを展開する全国の自治体が、万葉集の魅力を再発見するとともに、併せて地域の活性化と郷土の歴史文化の活用等を通じて互いに連携し、広く国内外に向けて展開していくため、「全国万葉故地サミット」を開催します。  
このサミットは万葉の歴史文化の魅力の再発見と発信、それぞれに万葉のまちづくりを展開する万葉故地の相互連携、都市間の交流、そして地域と連携したまちづくりや市民交流のさらなる促進を目指し、ここに「万葉集」に関わる都市の代表者により、この歴史文化遺産を未来に継ごうとするものです。

### 日 程

#### 10月6日(土)

- 14:00 開会  
14:05 アトラクション  
多賀城万葉まつり実行委員会  
14:25 基調講演  
「和歌と仮名文字 - 国府の宴(うたげ) - 」  
平川 南 氏(大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 機構長)  
15:50 シンポジウム  
17:20 第2回全国万葉故地サミット総会

※同時開催:10月3日(水)~8日(月)  
特設多賀城万葉ミュージアム(市民開館小ホールホワイエ)

#### 10月7日(日)

- 9:30 エクスカーション  
市内文化財、市立図書館視察、史都多賀城万葉まつり見学

## 全国万葉故地サミット共同宣言

私たちは、「全国万葉故地サミット」において、次のことを宣言いたします。

- 一 万葉ゆかりの地として、歴史や文化の調査・研究を進め、その歴史文化遺産を末永く後世へ継承します。
- 一 万葉ゆかりの地として、地域の歴史や文化をテーマとした魅力を再発見し、万葉故地の連携を強め、広域での魅力発信に努めます。
- 一 万葉ゆかりの地として、地域の歴史や文化を生かしたまちづくりを進め、万葉故地ネットワークの拡大と相互交流を促進します。

### 参加自治体地図



# ◆全国万葉故地サミット規約◆

## 全国万葉故地サミット規約

(名称)

第1条 本会は、「全国万葉故地サミット」(以下「サミット」という。)と称する。

(目的)

第2条 サミットは、全国の万葉にゆかりのある自治体が、万葉故地としての歴史文化遺産を末永く後世へ継承することに努めるとともに、万葉をテーマとした広域での魅力発信、歴史・文化を通じた相互交流を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 サミットは、前条の目的を遂行するため、次の事業を行う。

- (1) 万葉故地の歴史・文化の調査・研究に関する事業
- (2) 万葉故地としての歴史・文化遺産をテーマとした広域での魅力発信及び地域連携に関する事業
- (3) サミット加盟自治体の歴史・文化を通じた相互交流に関する事業
- (4) その他、前条の目的を遂行するために必要な事業

(組織)

第4条 サミットは、別表に掲げる自治体をもって組織する。

2 サミットの運営及び進行は、事務局が行う。

(役員)

第5条 サミットに次の役員を置く。

- (1) 会長 1名 サミット総会開催地首長
  - (2) 副会長 1名 次回サミット総会開催地首長
- 2 副会長の選出は、総会にて行う。
- 3 会長の任期はサミットの終了する日までとし、サミット終了後、会長は副会長にその任を引き継ぐものとする。

(役員職務)

第6条 会長は、サミットを代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代理する。

(総会)

第7条 総会は、2年に1度開催する。ただし、会長が特に必要と認めた場合は、随時開催できるものとする。

2 総会は、会長が招集し、総会の議長となる。

3 総会は、次の各号に掲げる事項を審議し、議決は出席者の過半数を持って決する。

- (1) サミットの運営に関する事。
- (2) 第3条に定めるサミットの事業に関する事。
- (3) サミット開催地に関する事。

(開催地)

第8条 開催地の決定に関しては行政の規模、その他会長が認める事由によって考慮することとする。

(担当者会議)

第9条 サミットの円滑な運営を行うため、サミットに担当者会議を置く。

2 担当者会議は、サミット加盟自治体の関係課所属長及び担当者をもって組織する。

3 担当者会議の運営、進行及び招集は、事務局が行う。

(事務局)

第10条 サミットの事務を行うため、サミットに事務局を置く。

2 事務局は、会長が属する自治体が務めるものとする。

(組織の拡充)

第11条 万葉にゆかりのある自治体に対し、サミットへの参加を継続して呼びかけることとする。

(委任)

第12条 この規約に定めるもののほか、サミットの運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規約は、平成28年10月7日から施行する

別表(第4条関係) サミット加盟自治体

市町村名

宮城県多賀城市	福井県越前市
富山県高岡市	奈良県奈良市
富山県氷見市	奈良県桜井市
富山県小矢部市	奈良県明日香村
富山県射水市	鳥根県益田市

たかおかし

## 高岡市



高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置し、深緑と清らかな水に包まれたとても自然豊かな地域で、日本の渚百選に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに3,000メートル級の立山連峰の大パノラマを見ることが出来ます。大伴家持や松尾芭蕉にも詠まれたこの海岸は「有磯海」と呼ばれていた歌枕であり、その風光明媚な景観は平成27年10月に「おくのほそ道の風景地」として国から名勝指定を受けました。

市内には銅器や漆器などの伝統産業が息づき、国宝「瑞龍寺」や重要文化財「勝興寺」などの文化財、山町筋・金屋町など古くからの町並が残る歴史情緒溢れるまちです。

大伴家持は国守として、高岡に5年間在任し、数多くの秀歌を詠み、万葉集に残しています。平成29年度は、大伴家持生誕1300年を記念し、記念セレモニーや演劇公演、「家持の時代」展などの記念事業を行いました。

人口・面積	173,174人・209.57km <sup>2</sup>
観光名所	雨晴海岸、瑞龍寺、高岡大仏、古城公園（高岡城跡）
代表的なお祭り・イベント	万葉まつり、高岡御車山祭、御印祭
食べ物	昆布飯、コロッケ
出身著名人	藤子・F・不二雄、登坂絵莉
万葉時代の地名	越中国

ひみし

## 氷見市



氷見市は、富山県の北西部、能登半島の基部に位置し、東は有磯海と呼ばれる富山湾に面し、南・西・北の三方は山並みが走ります。緩やかに弧を描きながら長く伸びる約20kmの海岸線一帯は、能登半島国定公園に指定されており、白砂青松の松田江の長浜から断崖の連なる灘浦海岸まで、変化に富んだ海岸美を見せてくれます。晴れた条件の良い日には、富山湾に浮かぶようにそびえる立山連峰の雄大なパノラマが眺望できます。

また、北部の沖合海上には、海岸沿いを流れる対馬暖流と日本海固有冷水塊の影響で南方系植物と北方系植物が混生する富山湾最大の蛇が島があります。

気候は雪国にあっても比較的温暖であり、食が豊かで、気候的にも住みやすい氷見の地には、古より人々の暮らしが営まれてきました。

奈良時代に、大伴家持が越中国守として赴任していた5年間、布勢水海の美しさをこよなく愛し、多くの氷見に関する歌を詠んでおり、こうした歌の中に初めて「比美（ひみ）」という地名が出てきます。

人口・面積	48,163人・230.47km <sup>2</sup>
観光名所	ひみ番屋街、氷見あいやまガーデン、潮風ギャラリー、氷見市立博物館
代表的なお祭り・イベント	ごんごんまつり、祇園祭り、氷見まつり、春の全国中学生ハンドボール大会
食べ物	ひみ寒ぶり、氷見牛、氷見米、うどん
出身著名人	藤子不二雄④、斎藤弥九郎、浅野総一郎、南弘
万葉時代の地名	越中国

おやべし

## 小矢部市



小矢部市は富山県の西端に位置し、市域の中央には小矢部川が流れ、桜町遺跡が伝える縄文文化を育みつつ、古代から水運や陸路などに恵まれた交通の要衝地として発展してきました。

石川県との県境にかかる砺波山一帯は、俱利伽羅国定公園に指定されており、ここを通る古代北陸道は、かつて家持が通り、平安末期は源平合戦の舞台となる一方、芭蕉や十返舎一九など文人墨客往来、市内にはゆかりの歌碑や史跡が数多く残されています。また、ユニークな公共建築により「メルヘンのまち」として知られる一方、3つの高速自動車道路が交差する交通の利便性を活かして、平成6年には、高さ118mのタワーがシンボルの複合交流文化施設「クロスランドおやべ」が開館、アウトレットモールがオープンするなど、交流のまちづくりに向けて、一層の発展を目指しています。

人口・面積	31,020人・134.07km <sup>2</sup>
観光名所	源平俱利伽羅古戦場、護国殖生八幡宮、クロスランドおやべ、縄文桜町遺跡、稲葉山・宮島峽、メルヘン建築
代表的なお祭り・イベント	石動曳山祭り、獅子舞祭り、津沢夜高あんどん祭り、源平火祭り
食べ物	メルヘン米、稲葉メルヘン牛、おやべホワイトラーメン、米(まい)たまご、和菓子
出身著名人	大谷米太郎・竹次郎兄弟
万葉時代の地名	越中国

いみずし

## 射水市



射水市は平成17年11月1日に1市3町1村（新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村）が合併して誕生しました。本市は環日本海交流拠点である富山県のほぼ中央に位置し、東西を県下2大都市である富山市、高岡市に隣接する県内第3位の都市です。

市の名称をなす「射水」は、古くから書物や地図に記されるなど、長い歴史を持つ由緒ある地名です。平安時代に完成したとされている地方の豪族などの系図をまとめた書物『先代旧事本紀（せんだいいくじほんぎ）』に伊弥頭（イミズ）という行政区域を支配した豪族「伊弥頭国造（いみづのくにみやつこ）」がいたと記されています。

また、大伴家持がまとめた『万葉集』では、行政区域としての「射水郡」という地名が初めて登場します。

そんな悠久の歴史を持った名を持つロマン溢れるまちです。

人口・面積	93,343人・109.43km <sup>2</sup>
観光名所	海王丸パーク、太閤山ランド
代表的なお祭り・イベント	新湊曳山まつり、越中だいもん凧まつり、稚児舞
食べ物	シラエビ、ベニズワイガニ、ホタルイカ、水島柿、池多りんご、黒河たけのこ
出身著名人	正力松太郎、立川志の輔、田知本遥
万葉時代の地名	射水郡

えちぜんし

## 越前市



越前市は、福井県の中央部に位置し、平成17年10月1日に旧武生市と旧今立町が合併して誕生しました。

しかし、本市の歴史は大変古く、「大化の改新」の頃に越前の国の国府が置かれ、以来、北陸地方の政治・経済・文化の中心地として栄えてまいりました。

平安時代には、「源氏物語」の作者である紫式部が生涯でただ一度、京の都を離れ、多感な少女時代を過ごした地でもあります。

また、継体天皇が祀られている岡(おか)太(ふと)神社や、桜と紅葉の名所である花筐公園など、市内には永い歴史によって培われた名所や旧跡が多く残されています。

産業面では、越前和紙や越前打刃物、越前単管をはじめとする伝統産業から、電子部品などの先端技術産業に至るまで幅広い産業が集積し、福井県内一の製造品出荷額を誇る「ものづくり都市」として、力強く発展を続けています。

人口・面積	83,122人・230.7km <sup>2</sup>
観光名所	紫式部公園、万葉の里味真野苑、花筐公園、大瀧神社、武生中央公園（だるまちゃん広場）、ちひろの生まれた家記念館
代表的なお祭り・イベント	たけふ菊人形、サマーフェスティバル、源氏物語アカデミー、武生国際音楽祭、味真野万葉祭り、式部とふじまつり
食べ物	越前おろしそば、ボルガライス、駅前中華そば
出身著名人	いわさきちひろ、かこさとし、池上遼一、秋山徳蔵
万葉時代の地名	越前国

# ◆サミット参加自治体ミニデータ◆

ならし

## 奈良市



奈良市は、人と自然・歴史が1300年にわたり共生してきた、世界に誇るまちです。近畿地方・日本全国からみて、ほぼ中央に位置しており、この好位置をはじめ、その他の自然的社会的環境により古くから政治・文化の中心として発展してきました。奈良時代、その最盛期の人口は約10万とも言われ、唐をはじめ渤海・新羅など異国の人たちの来訪もありました。現在も、約1,600万人の観光客が訪れる国際文化観光都市です。

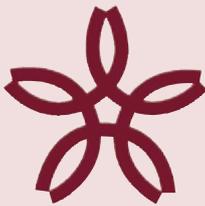
その中でも世界遺産「古都奈良の文化財」をはじめとする歴史文化遺産は、万葉集に関わる文化遺産といえます。そしてそれらは、今を生きる私たちの指針となる未来遺産でもあります。

また、万葉をテーマにした市民オペラの活動や「万葉歌碑」など、万葉びとの魂にふれることができるまちです。

人口・面積	35.8万人・276.94km <sup>2</sup>
観光名所	世界遺産「古都奈良の文化財」(東大寺、興福寺、春日大社、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡、春日山原始林)
代表的なお祭り・イベント	春日若宮おん祭、なら燈花会
食べ物	大和茶、古都華(いちご)、日本酒、かき氷
出身著名人	入江泰吉(写真家)、河瀬直美(映画監督)、堂本剛(歌手)
万葉時代の地名	大和国 寧楽

さくらいし

## 桜井市



桜井市は、奈良盆地の東南部に位置し、最古の神社である大神神社、「花の御寺」として人々の信仰を集めている長谷寺、「けまり祭」などで有名な多武峰談山神社、日本三文殊の一つである安倍文殊院、天平彫刻の国宝十一面観音像がある聖林寺などがあります。

また、桜井市から天理市、奈良市にかけて通っている日本最古の道「山の辺の道」には、年間を通して多くの人々が訪れます。

他にも、数多くの歴史・文化資源を擁しており、相撲発祥の地・相撲神社、仏教伝来の地、芸能発祥の地・土舞台、万葉集発祥の地、最古の交易の市・海柘榴市などが古事記・日本書紀・万葉集などにより伝えられています。

さらに、日本の国のはじまりの地「ヤマト王権発祥の地」として、古墳や遺跡が多数存在しており、邪馬台国最有力候補地とされる纏向遺跡、女王卑弥呼の墓ともいわれる箸墓古墳があります。

また、そうめん発祥の地とされ、三輪そうめんは全国的にも有名です。

人口・面積	57,705人・98.91km <sup>2</sup>
観光名所	大神神社、長谷寺、談山神社、安倍文殊院、聖林寺
代表的なお祭り・イベント	だだおし法要、おんぼら祭、大和さくらい万葉まつり、けまり祭
食べ物	三輪そうめん、みむろ最中、笠そば
出身著名人	保田與重郎、哲夫(笑い飯)
万葉時代の地名	大和国

あすかむら

## 明日香村



明日香村は奈良盆地の南東部に位置し、大阪から約40km、奈良市から約25kmの圏内にあります。昭和31年に阪合村・高市村・飛鳥村の3村が合併して誕生しました。

村及びその周辺は、6世紀末から8世紀初頭にかけての約120年間、一時期を除いて都が営まれ、天皇号や日本国号が初めて制定されるなど、日本の古代国家体制が形成された地域です。村内には「古事記」「日本書紀」に記された宮跡や古墳などが存在し、「万葉集」に詠われた自然環境と一体となって歴史的風土を形成しています。

飛鳥時代は推古天皇、皇極天皇(斉明天皇)、持統天皇、額田王など女性が活躍した時代でした。女性が活躍した飛鳥の魅力が国内外に広めるため、橿原市・高取町・明日香村が共同で申請した「日本国創成のとき～飛鳥を翔(かけ)た女性たち」のストーリーが、平成27年4月に日本遺産に認定されました。さらに「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指しています。

人口・面積	5,603人・24.08km <sup>2</sup>
観光名所	キトラ古墳、飛鳥寺、稲洲の棚田、飛鳥川
代表的なお祭り・イベント	飛鳥光の回廊、彼岸花祭、古都飛鳥文化祭、おんだ祭
食べ物	あすかルビー
出身著名人	西岡善信
万葉時代の地名	飛鳥

ますだし

## 益田市



昭和27(1952)年に市制施行。平成16(2004)年に益田市、美都町、匹見町が合併し、現在の益田市となる。

島根県の西端にあって山口県と接しており、北は日本海を望み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結び交通の要衝地。

中国山地に源を発する一級河川「清流」高津川(一級河川としては日本で唯一、支流を含めダムが一切ない。国土交通省が発表する水質ランキングで過去6度1位となる。)が日本海にそそぎ、清流の恵みで育つ、鮎と鴨島はまぐり(殻長7cm以上のものだけを収穫しブランド化。人麻呂ゆかりの地と伝えられる鴨島があったと言われる周辺の海で獲れることから命名。)は益田市でしか味わえない食材。

主要産業は温暖な気候を活かした一次産業であり、特に、メロンは県内でも有数の産地。

古くより、歌聖柿本人麻呂、画聖雪舟のゆかりの地として知られるほか、中世の時代の古文書(益田家文書:東京大学史料編纂所所蔵)と史跡がともに良好な状態で存在するなど、豊かな歴史・文化を有する。

人口・面積	47,200人・733.19km <sup>2</sup>
観光名所	高津柿本神社、戸田柿本神社、萬福寺雪舟庭園、医光寺雪舟庭園、匹見峡、島根県芸術文化センター「グラントウ」
代表的なお祭り・イベント	益田まつり、益田水郷祭、萩・石見空港マラソン全国大会
食べ物	ゆず、わさび、メロン、ぶどう、トマト、高津川の鮎、鴨島はまぐり
出身著名人	秦佐八郎(医師。ドイツ国立実験治療研究所のエールリッヒと共同でサルバルサンを発見)、徳川夢声(活動弁士、漫談家、作家、俳優)、岩本薫和(日本囲碁界の重鎮)、田淵久美子(脚本家)
万葉時代の地名	石見の国 美濃郡

たがじょうし

## 多賀城市



多賀城市は、宮城県仙台平野の東端に位置しており、仙台市に隣接し交通の利便性にも恵まれ、商業施設も多く立地するなど職住近接のとても暮らしやすいまちです。

また、神亀元年(724年)に陸奥国府が多賀城に置かれて以来、約1300年の歴史を有し、奈良・平安時代に都から多賀城へ赴任した人々が周辺の美しい自然を歌に詠み込んだことから、多賀城は都人の憧れを集め、今日まで続く「史跡のまち」として親しまれています。

万葉集を編纂した大伴家持は、齢65歳で多賀城に赴任しました。歌は残しませんでした。家持が赴任した多賀城跡をはじめとして、縁のある文化財が市内に多数あります。

サミットの後には、歴史あるその史跡や東北歴史博物館、東日本大震災からの復興のシンボルと位置付けている多賀城市立図書館などにお立ち寄りいただき、悠久の歴史と伝統に培われてきた多賀城の今と昔を体感ください。

人口・面積	62,174人・19.69km <sup>2</sup>
観光名所	特別史跡「多賀城跡附寺跡」、重要文化財「多賀城碑」、名勝おくのほそ道の風景地「壺碑(つぼの石ぶみ)」、「興井」、「末の松山」
代表的なお祭り・イベント	多賀城跡あやめまつり、多賀城市民夏まつり「ザ・祭りin多賀城」、野田の玉川あんどんまつり、史都多賀城万葉まつり
食べ物	多賀城みそ、多賀城古代米ブランド「しろのむらさき」
出身著名人	石森太二(プロレスラー)、郷古廉(ヴァイオリニスト)千葉雄大(俳優)、平沢大河(千葉ロッテマリーンズ)
万葉時代の地名	陸奥の国



### サミットシンポジウムの様子



多賀城市  
市長  
菊地 健次郎 氏

万葉歌人大伴家持は天応2年に、陸奥按察使兼鎮守將軍・持節征東將軍として多賀城に赴任したと言われています。多賀城で歌を詠んだという記録はありませんが、家持を偲び、ここ多賀城市文化センターの中庭に歌碑が建立されています。

平成10年からは、家持の功績をたたえる市民のまつり「史都多賀城万葉まつり」が開催されています。市民による実行委員会が組織され、本市を代表するおまつりとして市民の中でも定着しています。家持の名を冠した「大伴家持のつどい短歌大会」も開催されており、今年で第40回を迎えます。市内の小中学生や全国の方から短歌をつどい、万葉まつりとともに本市を代表する万葉を活かしたイベントと言えます。

また、万葉集を題材に多くの作品を手掛けられた洋画家の故日下常由氏から多くの作品を御寄贈いただいています。作品をデジタル化して、「多賀城万葉デジタルミュージアム」をweb上で公開し、悠久の歴史流れる「史都多賀城」を全国に発信しています。

最後に、本市は重点プロジェクトとして、「東北随一の文化交流拠点」の創造に取り組んでおり、文化・芸術によるまちづくりを推進しています。「多賀城市世界絵本フェスタ」や、東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北 ― 復興を支えた人々の祈り―」などを開催しました。今後は、本市のアイデンティティである文化遺産等を活用したまちづくりを推進するため、多賀城創建1300年に向けた事業を進めて行きたいと思えます。



高岡市  
市長  
高橋 正樹 氏

高岡市は、日本最古の歌集「万葉集」の编者といわれる大伴家持が、越中国守として5年間在任し、多くの歌を詠んだ万葉の故地であることから、市民の皆様と共に万葉のふるさとづくりに取り組んでいます。「万葉集」を中心テーマに据えた全国初の専門施設として、平成2年10月に越中の国府があった地、高岡市伏木に「万葉歴史館」が誕生し、「万葉集」に関する調査・研究や、万葉に関する展示・講座などを行っています。「万葉のふるさと高岡」を全国に発信するために、万葉集全20巻を全国からの応募者約2,000人によるリレー方式で、三日三晩にわたって歌い継ぐ「万葉集全20巻朗唱の会」をメインとした「高岡万葉まつり」を毎年10月に開催しています。

高岡市伏木地区には、世界に誇る富山の絶景「雨晴海岸」があります。浜から眺める岩礁、富山湾越しに見る3,000m級の立山連峰の雄大な眺めは、息を呑む美しさです。家持はこの美しい海岸で、いくつもの歌を詠んでいます。4月には道の駅がオープンしました。地元産の食材を使ったランチやスイーツが楽しめるカフェ、高岡銅器・漆器を使ったクラフト製品、地酒・地元銘菓・雑貨等を取り揃えています。同じく伏木地区にある「雲龍山勝興寺」は本堂をはじめとする12棟の建造物が国重要文化財に指定され、平成10年度より保存修理が行われています。家持が赴任した国庁は、この勝興寺の位置にあったと考えられており、境内には家持の万葉歌碑も建てられています。JR伏木駅から勝興寺までの参道には、国の登録有形文化財に登録されている「高岡市伏木気象資料館」があり、歩いて万葉歴史館まで足を延ばすこともできます。皆様方にはぜひ伏木地区へお越しになって、万葉ゆかりの地に思いを馳せながら、まち歩きを楽しんでいただければ幸いです。

## ◆サミットシンポジウム《代表者発言要旨》◆



**氷見市**  
教育長  
鎌仲 徹也氏

万葉集の代表的歌人大伴家持が越中国守として5年間赴任している間に、氷見の地へたびたび訪れています。特に布勢の水海には、国庁の部下や奈良からの客らとともに舟遊びをするために訪れ、万葉集には4回の記録が残っています。歌枕として、「垂姫の崎」「麻都太要の長浜」「比美の江」などが知られています。

また、松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅で、越中を訪れた際、どうしても行きたいと願ったものの叶わなかった「田子の藤波も越中を代表する歌枕となっています。万葉ゆかりの地である、「布勢の円山」と「藤波神社社叢」を市の名勝に指定し、保存と活用に努めています。市内には、氷見市や愛好者等によって22基の歌碑等が建立されています。

今後のまちづくりの考え方としては、大伴家持が氷見の地で初めて歌を詠んだ西暦747年6月10日にちなみ、本年6月10日には、生誕1300年記念「HIMI万葉 festival IN 布勢水海」を開催しました。大伴家持が氷見で詠んだ歌を児童生徒が朗唱したほか、富山県出身でドイツで活躍するオペラ歌手澤武紀行氏による「布勢水海に遊覧する賦」の歌唱、十二町潟での遊覧体験など学びながら楽しむイベントとなりました。また市内に点在する家持の歌碑を巡るバス見学の実施や、小・中学生による万葉歌の朗唱など、引き続きふるさと教育のテーマの一つとして取り組みます。



**小矢部市**  
教育長  
野澤 敏夫氏

小矢部市は、縄文桜町遺跡のすぐ横で古代北陸道の道路跡が発見されたように、万葉の時代から交通の要衝地として栄えてきました。源平の時代には、源義仲が奇策「火牛の計」で平家の大群を打ち破った倶利伽羅合戦の舞台となり、今では源平火牛祭りへと続いています。また、高さ118mのタワーがシンボルの文化交流施設「クロスランドおやべ」やアウトレットモールが新たな賑わいを作り出しています。

越中守として赴任した家持は、この北陸道の倶利伽羅峠を越え、はじめて越中の国に足を踏み入れました。当時、北陸道には砺波の関が設けられ、家持は、砺波の関を歌枕とした歌を残しています。「砺波の関」の所在地は諸説あるのですが、その一つである高台からは、遠く散居村の景観と共に、家持が越中に在任中にこよなく愛したとされる高岡市の二上山を望むこともできます。都を離れ、険しい倶利伽羅峠を越え、越中に足を踏み入れた時の家持の様々な思いを偲ぶ場所ともなっています。砺波の関は、後世の藤原定嗣や家良など、多くの歌人の歌にも詠まれています。本市では、昭和53年に、この「砺波の関」があったとされる跡地及び周辺を「万葉公園」として整備し、家持赴任の宴と送別の宴で詠んだ歌をはじめ家持が詠んだ歌を中心に、長歌13首・短歌22首を4基の碑に刻み、偉大な万葉の歌人を偲ぶ縁としています。

また、市の第6次総合計画において歴史を核とした地域の活性化を掲げ、縄文桜町遺跡や木曾義仲の奇策「火牛の計」で有名な源平倶利伽羅合戦などをテーマとした事業を展開してきました。平成31年度からの第7次総合計画においては、「ウォーキングタウンおやべ構想」を掲げ、市民はもとより人と人の交流促進を図るため、メルヘン、歴史、自然がクロスするまち“おやべ”をウォーキングで散策することができるようルート開発や環境整備を目指しており、本サミットへの参加を契機に、「万葉」をテーマにした事業展開も検討していきたいと思っております。



**越前市**  
文化課課長  
竹中 忍氏

越前市は福井県のほぼ中央に位置し、平成17年に旧武生市と旧今立町が合併し誕生しました。市の歴史は大変古く、北陸地方では最も早く国府が置かれ日本海側の中心地として栄えました。平安時代には「源氏物語」の作者の紫式部が生涯でただ一度、京の都を離れ、多感な少女時代を過ごした地であり、その体験が「源氏物語」の執筆に大きな影響を与えたと言われています。

継体天皇を祀る岡太神社をはじめ、市内各地に継体天皇の伝承が数多く伝えられるとともに、味真野に流された中臣朝臣宅守と、都で一途に宅守を恋慕う妻・狭野弟上娘子の間に交わされた情熱的で悲しい恋の歌（相聞歌）が「万葉集」に63首残されています。1200年以上の時を越えても2人の燃えるような恋の歌は、新鮮で大きな感動を与えています。相聞歌の舞台である味真野地区では、GW期間中に毎年あじまの万葉まつりが開催されており、今年で34回を数え、当時の衣装を着た行列が街中を歩く姿は見どころの一つとなっています。味真野地区の万葉の里には味真野苑があります。苑内には万葉と恋の歌をテーマにした資料館「万葉館」があります。苑周辺は継体大王の住まいがあったとも言われており、継体大王と照日の前の銅像が建立されています。

越前市は歴史と文化を誇る都市として発展を続けると同時に、大きな事業を行う中で、魅力あるまちづくりに取り組んでいます。北陸新幹線の南越駅（仮称）は、県内に設置される4駅のうち唯一、新設駅となります。越前市では、国や県の支援を受けて南越駅（仮称）周辺に広場やP&R駐車場、道の駅など約4.1haの整備を行う計画です。また、平成29年3月に改定した「市都市計画マスタープラン」には、南越駅（仮称）周辺を「広域高次都市機能」、すなわち「丹南地域のみならず県域を超える多様な利用者を対象とする、広域交流及び連携拠点としてふさわしい機能」の誘導を図るとの整備方針を位置付けました。100haに及ぶ広大な農地が広がり、北陸自動車道武生ICと国道8号に近接する立地を生かし、本県の魅力を高める戦略的な拠点として、民間資本の積極的な進出を促し、本市のさらなる発展に繋げていきたいと考えています。

## ◆サミットシンポジウム《代表者発言要旨》◆



奈良市  
副市長  
向井 政彦氏

本市は万葉集 4,500 余首の中で、市内の地名にゆかりがある歌が約 200 首あるとされています。現代においても、市内では色々な場所で「万葉」にゆかりのある事業が実施され、奈良市民にとって特別な言葉でありつつも、日常にある身近な言葉でもあります。

万葉を生かしたまちづくりや取組としては、万葉集のうち奈良市の地名にゆかりがある歌から、約 50 を歌碑として残しており、市では散策マップを配布しています。また、いわゆる万葉花を撮り続けた写真家・入江泰吉の写真を入江泰吉記念写真美術館において展示し、彼が亡くなるまで過ごした住まいを入江泰吉旧居として一般公開しています。さらに、なら 100 年会館では、「万葉オペラ・ラボ」という万葉集をテーマにした創作オペラの上演や、「まちなか万葉劇場」という市内各所でのアウトリーチ事業を行っています。

今後のまちづくりとしては、万葉歌碑や入江泰吉旧居のような万葉の息吹を感じることができるレガシィを遺していく取組を基盤とし、万葉オペラ・ラボのような創造的な取組を展開していくことで、今も万葉びとの息吹が感じられる“奈良市”を目指したいと思えます。奈良市役所の敷地内にある万葉歌碑には、736 年、新羅の都「慶州」に遣わされる使人が、長く続く船旅の不安のなか、都に思いを馳せ詠んだ歌が刻まれています。この慶州は奈良市の姉妹都市として現在も交流を続けています。奈良は、1,300 年前のつながりが今なお続く場所です。第 3 回全国万葉故地サミットは奈良市での開催が予定されています。万葉の時代にゆかりのある各都市が 1,000 年単位の時を越えつなげていく。各都市の絆がより強いものとなるよう、微力ながら尽力させていただきたいと思えます。



桜井市  
副市長  
笹谷 清治氏

本市は纏向遺跡をはじめ、飛鳥の地に宮が移るまでの 13 に及ぶ歴代天皇の宮跡があり、国の始まりの地、日本の源流の地として古い歴史があります。また、「古事記」「日本書紀」「万葉集」にも数多く記されており、その中でも万葉集 20 巻 4516 首中の巻頭歌は雄略天皇の歌であり、雄略天皇の泊瀬朝倉宮跡の近くの白山神社には、その歌とともに万葉集発源地の碑が建てられています。

三輪山の麓には、「日本書紀」にもその名が記される「山の辺の道」が残っており、この古道沿いには、本市出身の文芸評論家保田與重郎氏の尽力のもと、昭和を代表する各界の文人墨客の揮毫による万葉歌碑が建立され、万葉歌人の詠んだ風景が残っています。また、平成 24 年から市内の民間団体と協働し、記紀万葉プロジェクト推進協議会を組織し、揮毫された万葉歌碑の原書の展覧会を県内外で行ったり、原書のパネルを制作し市内の各所に設置するなど、市民に身近に万葉歌を感じてもらい、郷土愛を育んでもらう取組を進めています。昭和 50 年から続く「大和さくら万葉まつり」では、万葉の歌垣と伝えられる「海石榴市」を現代風にアレンジし、市内外の商業施設の出店を募り、人が集い交易が盛んに行われたことを、若年層にも知ってもらう取組を進めています。

本市の有する数多くの歴史文化遺産や、記紀万葉に記される故地についての魅力を多方面に発信する事業をこれからも行っていきます。また、本市観光ボランティアガイドの会を中心にガイドのさらなる養成を行い、万葉歌碑や歴史文化を訪れる方々にわかりやすく魅力を伝えていこうと思っています。さらに、講演会やウォーキングイベントなども行い、老若男女を問わず、より多くの方々に記紀万葉に親しんでもらえる機会をつくっていききたいと思えます。そして、本市だけでなく、県内外の関係自治体とも連携・協力し広域事業も進めていければと思っています。



益田市  
産業経済部 部長  
田中 和明氏

本市は、万葉集最高の歌人と称される柿本人麿ゆかりの地です。人麿は益田市戸田で生まれ、晩年、石見国府の役人として赴任し一旦上京するも、後に再び石見国に帰り、益田市沖の鴨島で生涯を閉じたと伝えられています。生誕地（戸田）と終焉地（高津）にはそれぞれ、人麿を祀った柿本神社が建立されています。

万葉を活かしたまちづくりとして、人麿公の偉業を顕彰し、人麿公にまつわる諸事業を実施する「人麿公顕彰会」や、地域・学校と連携した、かるた大会やクイズウォーキング大会を実施しています。また、島根県立万葉公園には地域にゆかりのある歌の中から 35 首を歌碑として配置されており、展望広場は雄大な日本海や万葉集に詠まれた山々を望むことができる憩いの場所となっています。万葉短歌大会、観月会、万葉竹灯籠など様々なイベントを実施し、園内では 130 種類以上もの万葉植物を見ることができます。他にも多数のかるた大会が開催されており、益田高校では県・全国大会で優秀な成績を収めるなど、古くからかるたが盛んな地域でもあります。

近年では、中世の史跡と古文書がともに良好な状態で存在することが、全国的に注目されています。また、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用した事業である、「歴史を活かしたまちづくり推進計画」に基づき、民間団体を中心とした交流人口拡大の取組を推進するとともに、平成 30 年度中に歴史文化基本構想を策定し、万葉・人麿も含めた豊かな歴史・文化を活かしたまちづくりに市民ぐるみで取り組む流れを創出したいと考えています。特に万葉・人麿に関しては、平成 35 年には高津柿本神社 1,300 年式年祭を迎えることから、節目の年に向け、本市として民間団体の活動支援を行うとともに情報発信や誘客に向けた取り組みを行いたいと考えています。サミット加盟自治体の皆様にもぜひ注目をしていただければと思います。

《テーマ》

「和歌と仮名文字—国府の宴（うたげ）—」

《講師》

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構・機構長  
平川 南 氏

《プロフィール》

山梨県生まれ。宮城県多賀城跡調査研究所技師・研究員を経て国立歴史民俗博物館助教授・教授・副館長、2005年より館長を務める（～2014年）。また、2005年より山梨県立博物館館長も兼務。2014年より大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事を務め、2018年より機構長。国立歴史民俗博物館名誉教授、山梨県立博物館名誉館長。



《講演内容（概要）》

1. 仮名文字はどのように生まれたか  
—万葉仮名・草仮名・平仮名—
  2. 国府と国守
  3. 大伴家持と国府の宴—越中守・因幡守
  4. 多賀城跡仮名漆紙文書（9世紀中頃）の発見
  5. 各地発見の仮名文字
    - 9世紀後半 平安京藤原良相邸跡
    - 9世紀後半 富山県射水市赤田 I 遺跡草仮名墨書土器
    - 10世紀 鹿児島県気色の杜遺跡墨書土器（大隈国府関連遺跡）
  6. 仮名文字の成立—リズムミカルな仮名は和歌の中で成立—
    - 『古今和歌集』（905年ごろ）・『土佐日記』（935年ごろ）
    - 国守送別の宴と地方豪族
- 山梨県甲州市ケカチ遺跡出土「和歌刻書土器」（10世紀中頃）の発見—

文字を持たなかった日本は、中国から漢字を受け入れ、古代朝鮮の多大な影響を受けつつ、日本語表記を実現していった。

5世紀の埼玉県稲荷山鉄剣銘では人名や地名などの固有名詞を漢字の音（おん）によって表記している（「斯鬼（しき）」宮〔奈良県桜井市磯城（しき）〕）。

さらに、7世紀には和歌を漢字一字一音で表現した。

「皮留久佐乃皮斯米之刀斯」

（はるかさのはじめのとし〈春草の始の年〉） [難波宮跡木簡]

和歌を含む歌謡は本来文字によらず音を伴う口誦文芸とされ、漢字、楷書体はなじまない。そこで万葉仮名の一字一音の表記からそれを崩した草書体の仮名（草仮名）、さらに仮名、しかも仮名文字を続けて書く連綿体の書体へと進むのは自然の流れといえよう。

実際は、750年ごろ奈良時代から100年以上かけて使われてきた文字の中から字母（仮名のもとになった漢字）と字形が整えられ、仮名が成立したのは900年ごろであろう。『古今和歌集』905年ごろ）が大きな画期となったとされる。

古代の国々を治めるために、中央政府は有力氏族を国司として各地に派遣した。4年ほどの任期を終え、都へ戻る際に送別の宴が国司の館などで催された。その宴で任国を離れる惜別の和歌をかわらけ（素焼きの土器）に墨書・刻書したのであろう。

- 名 称** 第2回全国万葉故地サミット総会
- 期 日** 平成30年10月6日（土）  
※サミット会場にて、同時開催（17:20～）
- 会 場** 多賀城市民会館 小ホール
- 参加者** 高岡市 市長：高橋 正樹（たかはし まさき）氏  
氷見市 教育長：鎌仲 徹也（かまなか てつや）氏  
小矢部市 教育長：野澤 敏夫（のざわ としお）氏  
越前市 文化課課長：竹中 忍（たけなか しのぶ）氏  
奈良市 副市長：向井 政彦（むかい まさひこ）氏  
桜井市 副市長：笹谷 清治（ささたに きよはる）氏  
益田市 産業経済部部長：田中 和明（たなか かずあき）氏  
多賀城市 市長：菊地 健次郎（きくち けんじろう）氏  
※射水市、明日香村は欠席
- 内 容** 1. 次期開催市の確認及び会長選出  
2. 副会長選出  
3. 次期開催市への引き継ぎ

## ◆総会の様子◆



シンボルレリーの引き継ぎ  
多賀城市長 菊地健次郎（左）  
奈良市副市長 向井政彦（右）



## ◆特設万葉ギャラリーの様子◆

洋画家の故日下常由氏から御寄贈いただいた、万葉集をテーマとした絵画を、市民会館小ホールホワイエへ展示しました。

展示期間：平成30年10月3日(水)～10月8日(月)



## ◆全国万葉故地サミットシンボルレリーフ◆

高岡市デザイン工芸センターの助言を得て、高岡市を代表する伝統工芸士により制作されました。万葉に寄せる本サミットの思いを表すシンボルとして、万葉集とともに大切に引き継いでいってほしい…そんな願いを込めて制作されました。

- ・サイズ：縦35センチ、横25センチ、厚み1.8センチ
- ・シンボル：螺鈿仕上げとなっており、万葉集に詠まれた春の植物・梅、秋の植物・萩と三日月をモチーフにデザインされています。
- ・材質及び仕上げ：木製の素地を漆仕上げ
- ・制作：武蔵川秀山氏（螺鈿）、斎藤慎二氏（漆塗）



## ◆アトラクションの様子◆

史都多賀城万葉まつり実行委員会（花柳流 ひろはな会）の協力によるアトラクション。

第2回万葉故地サミットのオープニングを飾る流麗な舞で、来場された方々を万葉の世界へ誘いました。



## ◆エクスカージョンの様子◆



特別史跡・多賀城跡



市立図書館前



史都多賀城万葉まつり

## <次期開催市> 奈良市

奈良市は、1300年の歴史を誇る歴史と文化のまちです。世界遺産をはじめとした有形の遺産だけでなく、連綿と続く無形の遺産が市民生活を豊かに彩っており、文化の香りに包まれる場所です。

市内には、なら100年会館やならまちセンターなどのホール施設、入江泰吉記念奈良市写真美術館や奈良市杉岡華邨書道美術館、奈良市美術館などの美術館施設があり、気軽に幅広いジャンルの文化・芸術に触れることができます。

また、2016年には「東アジア文化都市」の日本開催都市として日中韓によるさまざまな文化・芸術交流プログラムを展開し、さらに昨年には「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭」の会場として多分野にわたる文化イベントを開催するなど、国際文化観光都市として魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

第3回全国万葉故地サミットでは、万葉を愛するたくさんの方に奈良を訪れていただきたいと思えます。

2020年、古都・奈良で皆さまにお会いできることを心より楽しみにしています。



奈良市 『平城宮跡第一次大極殿』

